

高養研

発行 北海道高等学校養護教諭研究会
 事務局 北海道札幌西高等学校
 〒064-8624 札幌市中央区宮の森4条8丁目1
 TEL 011-611-4401 FAX 011-611-4403
<http://koyoken.sakura.ne.jp/myks/hyousi.html>



北海道高等学校養護教諭研究会

会長 渡邊 祐美子

(北海道千歳北陽高等学校長)

「凡事徹底」

平成30年度から、前会長の小島晶夫校長の後を引き継ぎ、北海道高等学校養護教諭研究会（高養研）の会長を務めることになりました。高養研の一層の充実、発展に向けて微力ながら尽力させていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

3月に前任校を離れる間際、「先生の学校の生徒さんは素晴らしいですね。大雪で車が滑って動けなくなっていた時に、ちょうどバスから降りてきた男子生徒3～4人が駆け寄ってみんなで車を押してくれたんですよ。運転手さんのお礼の言葉に、『僕たちは普段、町の人にお世話になっているから』と言っていましたよ。まさに“凡事徹底”ですね。」とその光景を見ていたという地域の方から、生徒に対するお褒めの言葉をいただきました。

“凡事徹底”とは、「当たり前のことを当たり前にするのではなく、当たり前のことを人には真似できないほど一生懸命にやること。平凡なことを徹底してやると、平凡な中から生まれてくる非凡が、いつかは人を感動させることができ、大きな成果に結びつく。」という意味ですが、改めて生徒に尋ねてみると、学校における日常の指導が生徒の心に染み入り、困っている人を助けるといった行動を当然のこととして行ったとのことでした。

「近年の社会環境や生活環境の急激な変化は、子供の心身の健康にも大きな影響を与えており、学校生活においても生活習慣の乱れ、いじめ、不登校、ストレスによる心身の不調や児童虐待

などのメンタルヘルスに関する課題、アレルギー疾患、性に関する問題行動や喫煙・飲酒・薬物乱用、感染症など、現代的な健康課題が深刻化している。」ここ数年来、文部科学省等が主催する各種研修会等における児童生徒の健康課題については変わることなく、このフレーズが使われ続けており、生涯を通じて自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力の育成が急務となっています。

過日、次期高等学校学習指導要領が公示され、平成34年度から全面実施されます。今次改訂の方向性は、よい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念の下、ただ単に知識の理解にとどまらず、「何ができるようになるか」を明確に示した点がこれまでとは大きく異なっており、育成を目指す資質・能力について「知識・技能」、「思考・判断・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱に沿って整理され、目標化されています。

子供の健康課題は、養護教諭をはじめとする学校保健や健康教育に携わる者が連携し、心身の健康の価値を教える「健康教育」の“凡事徹底”なくしては解決できないことを今一度心に刻みたいと思っています。

今こそ、教育職員としての養護教諭の専門性を発揮し、次代を担う心身ともに健康な生徒の育成に励んでいただきますよう、よろしくお願いいたします。

北海道高等学校養護教諭研究会第33回研究協議会のご案内

【開催日】平成30年7月26日(木)・27日(金)

【日程】

7/26	12:30	13:00	13:20	15:20	15:45	7/27	9:15	9:30	10:00	11:30	12:00	13:20	15:20
(木)	受付	開会式	講演Ⅰ		地区幹事会	(金)	受付	総会	研究発表	情報提供	昼食	講演Ⅱ	閉会式

【場所】

北海道札幌北高等学校 記念館 彩風館
札幌市北区北25条西11丁目
TEL(011)736-3191

【アクセス】

- ・地下鉄南北線 北24条駅
1番出口より西方向へ徒歩15分
 - ・JR学園都市線 新川駅より徒歩18分
- ※ 車でのご来場はご遠慮ください。

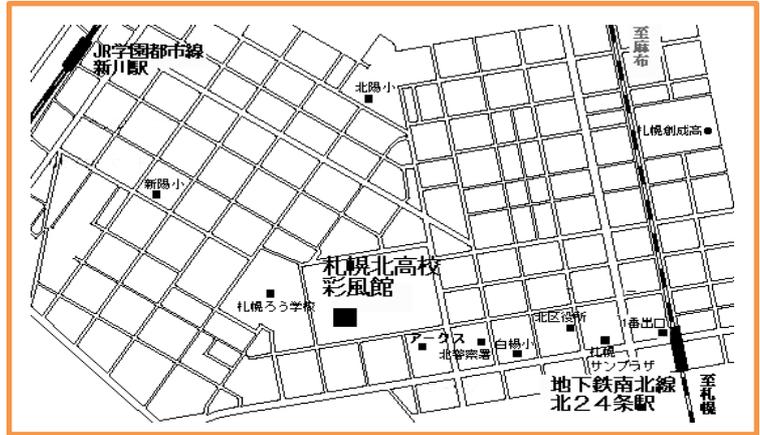
【昼食】

7/27(金)の昼食は、7/26(木)の受付横で引換券を販売しますので、ご利用ください。

【参加対象】

北海道高等学校養護教諭研究会会員

※ 会場の収容人数の都合上、事前に申し込まれた方のみでの参加となります。



《第1日目》

講演Ⅰ

演題 「今の時代の養護教諭の位置付けと対応と方向性

—単なる頭部打撲、頭部外傷としない…

その背景と子どもの体質の変化、大事なのは診断より判断—

講師 とまこまい脳神経外科小児脳神経外科部長、岩見沢脳神経外科

高橋 義 男 氏

<講演要旨>

今から40数年前医療現場にCTなどの新たな診断法が普及し、それに伴って治療や医療技術が進歩、救急対応の標準化がなされ、それは学校保健の内容や体制も変化させた。そして養護教諭の立ち位置もケガ等への現場対応の時代から、職務としての重症度評価と対応だけでなく、虐待、いじめを初めとした発生背景の把握とその後の継続的対応、つまり“知識と判断とその後の支援”が必要とされる時代となった。

私が12年前北海道第4位市(人口約17万)において、地域の中の小児神経外科を開設してからの18才未満の患児は10,923例で、多いのは頭部外傷、頭痛、発達障害であった。内、頭部外傷は5,240例(50.9%)と半数以上を占め、そのうち学校管理下の災害は、1,432例(27.3%)であった。重症例は年齢と共に増加、又、単純な頭部外傷だけでなく、家庭内、学校内を含めた複雑な背景がみられたり、本人が発達障害であることも少なくなかった。

今の時代の養護教諭は学校の先生たちによる子どもへの影響を含め、子ども達を包括的に捉え、将来を創っていく“コーチング”、“ダイバーシティー”という感覚が必要である。

<プロフィール>

札幌医科大学卒。中村記念病院勤務後、北海道立小児総合保健センター(現北海道立子ども総合医療・療育センター)小児脳神経外科医長兼札幌医科大学 脳神経外科学講座 講師を経て、平成17年とまこまい脳神経外科小児脳神経外科部長に就任。平成24年から現職(大川原脳神経外科病院、岩見沢脳神経外科、町立別海病院 小児脳神経外科部長 小児リハビリテーション部長を兼任)。



医療現場で患者と向き合う一方、障害児支援団体「ほっかいどうタンポポ」「ごめっこ」「ぼれぼれペンギン」などの代表顧問を務める。

また、ドキュメンタリー漫画『義男の空』（エアードライブ 11 巻発刊）のモデルとなった医師でもある。「不可能を可能に・・・」はモットーの一つ。

＜参考関連著者文献、出版物＞

- 1) 高橋義男、横山淳子: 頭部打撲、頭部外傷への対応—単なる頭部打撲、頭部外傷としない…診断より判断—、健康教室 2017 年 9 月号第 68 巻第 11 号、16-20
- 2) 高橋義男: 小児神経外科の ABC 急性硬膜下血腫、小児の神経 25、104-109、2000
- 3) 高橋義男: Battered Child Syndrome による頭部外傷、JOURNAL OF CLINICAL REHABILITATION 14、922-929、2005
- 4) 高橋義男: 頭部外傷、小児科 41、656-664、2009
- 5) 高橋義男(共著): 小児頭部外傷、医学書院(東京)1996
- 6) 高橋義男(共著): 小児救急ファーストエイドブック、南江堂(東京)2003
- 7) 監修 伊藤千香子他: フィジカルアセスメントシートを使った学校事故への対応【前編】、健康教室 2017 年 5 月号、第 68 巻第 6 号、69-77
- 8) 監修 伊藤千香子他: フィジカルアセスメントシートを使った学校事故への対応【後編】、健康教室 2017 年 6 月号、第 68 巻第 7 号、72-78

《第2日目》

講演Ⅱ 演 題 「こころの力を育てる10のヒント ～認知行動療法に学ぶ～」
講 師 一般社団法人 認知行動療法研修開発センター理事長 大野 裕 氏

＜講演要旨＞

うつ病などの治療で効果が認められている認知行動療法は、上手なストレス対処法をまとめたもので、そのアプローチのなかに、毎日のストレスに上手に付き合っていくために役立つ対処法が多く含まれています。現代社会を生きていく上でストレスを避けることはできません。しかし、ほどほどのストレスを感じることは、自分の力を発揮するために必要なことでもあります。

認知行動療法のアプローチを身につけると、悩んでいる人に寄り添いながら、その人が毎日の生活を自分らしく有意義に送れるように手助けすることが可能になります。また、こうした方法を生徒が身につけると、高校生活ではもちろんのこと、その後の人生でも自分らしく生きていける力になります。養護教諭として、保健室にとどまらず、保健学習や保健指導など学校教育の様々な場面で活用できるヒントをお伝えしたいと考えています。



＜プロフィール＞

慶應義塾大学医学部を卒業後、慶應義塾大学医学部精神神経科学教室、コーネル大学医学部、ペンシルベニア大学医学部留学を経て、慶應義塾大学教授、独立行政法人国立精神・神経医療研究センター長に就任。現在顧問。(一社)認知行動療法研修開発センター理事長。日本認知療法・認知行動療法学会理事長。

＜著書・出版物等＞

「マンガでわかりやすいストレスマネジメント」「マンガでわかりやすいうつ病の認知行動療法(ともに、きずな出版)」「簡易型認知行動療法」(ストレスマネジメントネットワーク)他多数。認知行動療法活用サイト「こころのスキルアップトレーニング」監修。2001年より、毎週、日本経済新聞にコラム「こころの健康学」執筆中。

情報提供・研究発表助言

情報提供 「学校保健の課題とその対応」

提供・助言者 北海道教育庁学校教育局健康・体育課学校保健・体育グループ

指導主事 篠原 弥 智 氏

研究発表

主 題 「チェックシートで検証! 保健室での生徒対応

～養護教諭が心身ともに健康で生徒と関わり続けるために～」

発表者 北海道釧路北陽高等学校 養護教諭 鈴木 祥子 氏

<研究発表要旨>

これまで、多くの生徒たちと保健室で関わってきましたが、さまざまな困難な状況により生きる気力を失いかけた生徒たちとの出会いもありました。その子たちと関わるなかで養護教諭自身が疲労感を抱え生徒対応がしんどいと感じることもありましたが、さまざまな経験を通し、子どもたちから「人は必ず回復していく力がある」ということを学びました。

ただ、養護教諭がしんどいと感じる関わりは長く続けられません。目指すは「養護教諭が心身の健康を守りつつ、子どもたちが心身ともに健康に回復していく関わりをする」ことです。

これまでのさまざまな経験や自身の課題、問題点から、生徒対応で養護教諭として大切にしたいことを項目に整理し、自身の対応はどうだったかをチェックするシートを作成し現在活用しているところです。その取り組みと、そこから見えてきた成果と課題について発表させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

研修報告

「全国養護教諭連絡協議会第23回研究協議会」に参加して

北海道天塩高等学校 養護教諭 宇野 芙美 氏

この度、「全国養護教諭連絡協議会第23回研究協議会」に参加いたしました。「時代の変化に対応した養護教諭の役割を追求する」～『チームとしての学校』の力を高める養護教諭の役割とは～を主題に、チームの一員としての養護教諭の関わりについて学びを深める機会となりました。

特別講演では野田恭子氏に発達障害のピアニスト野田あすかさんのエピソードを伺いました。子育てでの苦労や親としての想いを聞くことで、障害と向き合いながら夢を目指している人、それを支えてくれている人がいるということに改めて気付かされた講演でした。

基調講演とフォーラムでは現代的健康課題を抱える子供たちへ養護教諭の関わりをどう活かしていくか考える必要性を感じるとともに、日頃の実践を振り返る機会となりました。

全国各地の先生方と情報交流ができたことはとても貴重な経験でした。養護教諭として、子ども達のために力を発揮できるよう、研鑽に努めて参ります。

事務局連絡

今年度は次の委員で運営していきますので、よろしくお願いいたします。

平成30年度北海道高等学校養護教諭研究会 役員名簿

会 長	渡邊祐美子	北海道千歳北陽高等学校	事務局員	関 澄恵	北海道札幌北高等学校
副 会 長	齊藤 淳子	北海道野幌高等学校		笹谷 幸	北海道札幌南陵高等学校
事 務 局 長	滝川 智子	北海道札幌西高等学校		山田 美香	北海道石狩南高等学校
会 計	中道真由美	北海道札幌白石高等学校		堀川 智恵	北海道札幌稲雲高等学校
事務局次長	岡 香	北海道札幌月寒高等学校	顧 問	林 裕司	北海道札幌丘珠高等学校
事務局員	佐藤 弘美	北海道札幌工業高等学校			

平成30年度北海道高等学校養護教諭研究会 地区幹事名簿

石 狩	柴田 加奈	北海道札幌丘珠高等学校	宗 谷	十川 光穂	北海道枝幸高等学校
道 南	本田 妙子	北海道檜山北高等学校	オホーツク	村上 静香	北海道網走南ヶ丘高等学校
後 志	木戸菜見子	北海道岩内高等学校	釧 路	鈴木 祥子	北海道釧路北陽高等学校
空 知	安田 昭子	北海道岩見沢農業高等学校	日 胆	林 麻未	北海道えりも高等学校
上 川	野口 直美	北海道旭川永嶺高等学校	根 室	小向ゆみ子	北海道根室西高等学校
留 萌	今川 綾花	北海道羽幌高等学校	十 勝	中山 知美	北海道清水高等学校

ホームページをご利用ください。

研究会の様子などがご覧になれますので、どうぞご利用ください。

【アドレス】 <http://koyoken.sakura.ne.jp/myks/hyousi.html>

このホームページから、北海道教育委員会、北海道教育研究会、全国養護教諭連絡協議会、文部科学省のホームページへもリンク出来ます。



高養研の会員になりませんか?
学級数の減少に伴い、会員も減少しています。会の存続と活性化のために、会員を募集しています。よろしくお願いいたします。